

D. 戦争の経過(関連資料)



資料名	新聞記事	寸法(mm)	310×110、120×290
解説	<p>五・一五事件（昭和7年、青年将校による首相暗殺）前後から次第に政府・軍部への迎合・賛美記事が増えた。開戦後の政府公式発表は、戦局悪化の中、過大な戦果を発表し続け、国民の判断力を奪った。</p>		

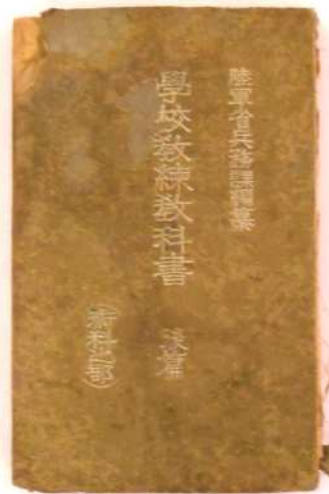


資料名	当時の新聞（昭和18年2月27日）	寸法(mm)	362×255
解説	<p>昭和17年（1942年）6月、日本軍は北太平洋のミッドウェー海戦で大敗北し、戦局が不利に転じると、大本営（旧日本軍最高機関）は、国民の戦意喪失を恐れ、以前よりも増して虚偽の情報を発表し、新聞などの検閲も強化して、国民に事実を隠蔽しました。</p> <p>記事1「空襲下食糧の不安なし」          実際は、物資の不足で米の配給が滞り、芋などの代用品が増え、国民1人1日当たりの摂取カロリー量も2千kcal未満でした。</p> <p>記事2「敵司令部／百子橋占領」          日本軍は、中国の主要な都市と交通路を占領しましたが、実際は「点と線」の支配で、国民政府（中国）軍は奥地の重慶で徹底抗戦を続け、民衆の抗日運動なども激しくなり、戦争は泥沼化していました。</p>		

D. 戦争の経過(関連資料)



資料名	青年学校手帳 <small>せいねんがっこうてちょう</small>	寸法(mm)	133×80
解説	<p>当時義務教育期間であった尋常小学校6年修了後、中等教育機関に進学しない青少年の実務教育機関としての実業補習学校と、大正15年（1926年）小学校修了後の生徒に対し、「青年訓練所令」を公布し、兵式訓練の施設である青年訓練所を設置、これらを統合するため、昭和10年（1935年）に「青年学校令」を公布して設置された青年学校で学んだ生徒が所持した手帳です。</p>		



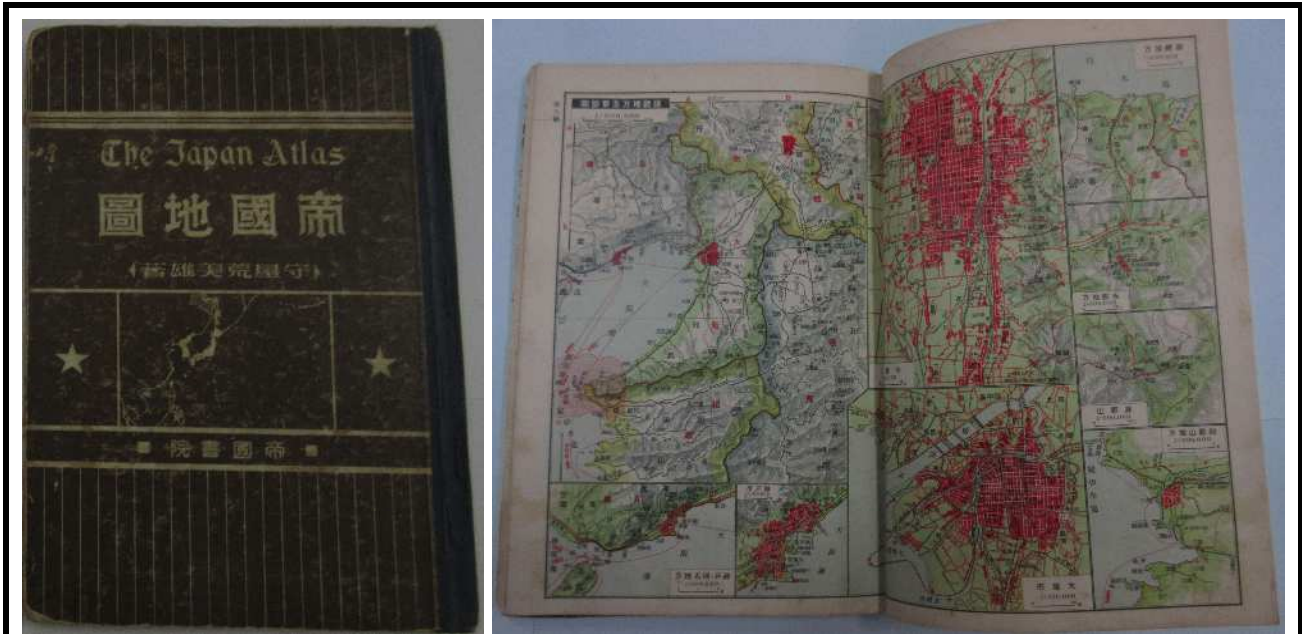
資料名	学校教練教科書 <small>がっこうきょうれんきょうりょうがくしよ</small>	寸法(mm)	137×85
解説	<p>第二次世界大戦前、各学校において学校教練が行われました。これは学校で軍事に関する教科や訓練を学ぶもので、その指導は学校に配属された現役将校（配属将校という）が当たりました。これは、その時使用された教科書です。広く予備的軍事教育を施すことを目的としたものです。</p>		

D. 戦争の経過(関連資料)



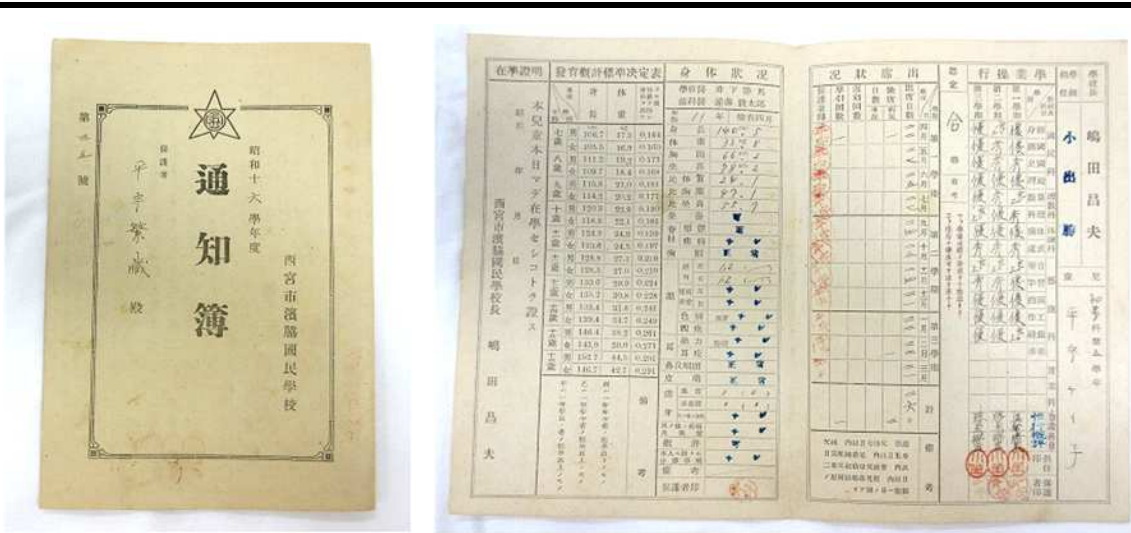
資料名	こくみんがっこうたいれんかぶどうめいじじんぐうこくみんせいたいかい 国民学校体錬科武道 (明治神宮国民練成大会)	寸法(mm)	110×138、95×138
解説	<p>国民学校は従来の小学校を昭和16年（1941年）の国民学校令に基づいて改称されたもので、教科は、初等科および高等科を通じて国民科、理数科、体錬科（体操および武道の科目）および芸能科とされました。そこで受けた武道を昭和17年（1942年）の第13回明治神宮国民練成大会で披露しました。この大会は国民の身体鍛錬、精神の作興（精神を奮い起こすこと）に資する（役立たせる）ことを目的として、明治神宮外苑競技場を主会場として開催されました。選手は青年団、一般で、青年団は道府県単位（1府県10名程度とする）。一般は北海道・東北・関東・北陸・東海・近畿・中国・四国・九州・台湾・朝鮮・関東州の12地域ごとに予選を行い選出。第一回は1924（大正13）年明治神宮競技大会と銘打って開始され、大正15年（1926年）の第三回からは明治神宮体育大会となり、昭和14年（1939年）の第10回から明治神宮国民体育大会、さらに昭和17年（1942年）の第13回大会からは明治神宮国民練成大会の名称で実施されました。大会は翌年の第18回まで行われました。</p>		

D. 戦争の経過(関連資料)



資料名	帝國地圖	寸法(mm)	225×155
解説	<p>この大正9年(1920年)版「帝國地圖(帝國書院)」は、当時の中学生が使用した地図帳で、日本と近隣諸国の地図、水平曲線式陸高図、気候区分と雨量分布図など、目次を除き全頁カラー印刷23図と、当時としては画期的な装丁でした。当時の世界情勢や軍国主義的な時代観を反映して、朝鮮と台湾を日本の一地方、ミクロネシア(西太平洋赤道以北の島々)を日本の委任統治領として掲載しています。また、東京の地図は、3年後の関東大震災で甚大な被害を受ける以前のもので、震災前の状況を示す貴重な資料とも言えます。</p> <p>*委任統治            国際連盟(国際連合の前身)の委任に基づいて、その監督下に、特定の国家によって行われた統治形式</p>		

D. 戦争の経過(関連資料)

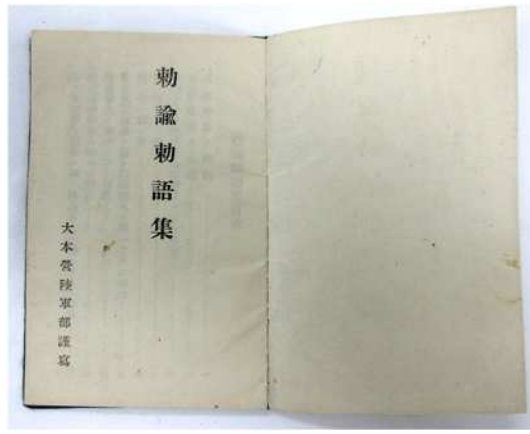


資料名	通知簿	寸法(mm)	133×93
解説	<p>昭和16年(1941年)、国民学校令が公布され、これまでの尋常小学校は国民学校と改められました。学校では教科教育の他に、儀式や学校行事、団体訓練、勤労奉仕などが重視され、皇国民の練成をめざす国家主義的な教育方針が推進されました。</p> <p>これらの通知簿は、こうした時代を反映して、国語や算数と共に「修身」や「武道」なども、教科・科目として「秀、優、良上、良下、可」の5段階で評価されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 皇国民「天皇国家の国民」</li> <li>* 練成「心身を鍛え育成すること」</li> <li>* 修身「道徳の実戦、道徳心を養い育てることを目的とした戦前・戦時の教科・科目」</li> </ul>		

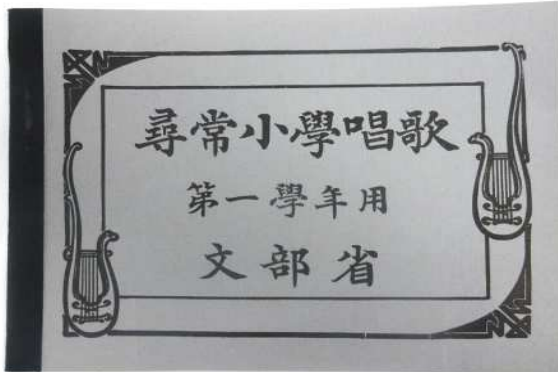


資料名	模範軍歌集	寸法(mm)	107×75
解説	<p>昭和12年(1937年)に勃発した日中戦争が長期化すると、軍歌は兵士の士気高揚を目的とした他に、国民の戦意高揚や軍事政策の宣伝などにも利用されました。恋愛などをテーマにした曲は厳しく弾圧され、軍国主義的な流行歌や映画の主題歌(戦時歌謡)が流行りました。</p> <p>この歌集は、当時の社会風潮に合う歌詞やメロディーの楽曲を選び、不適切なものを訂正し、軍隊や学校などで、軍歌の教科書又は参考書とする目的で編纂されました。</p>		

D. 戦争の経過(関連資料)

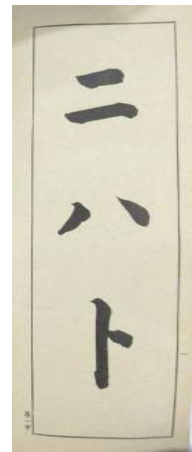
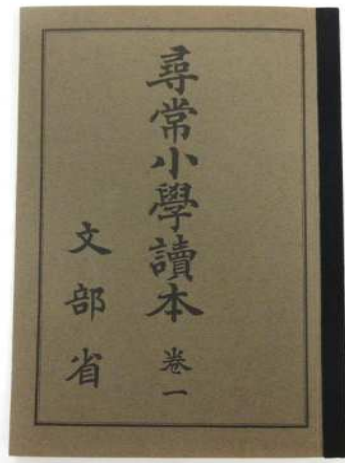


資料名	勅諭勅語集	寸法(mm)	127×82
解説	<p>明治憲法では、天皇は神聖不可侵の存在で、国家元首として統治し、陸海軍を統帥するなどの権限が定められていました。</p> <p>この冊子は、天皇が発する訓示的な言葉や意思表示（勅諭・勅語）を、大本営陸軍部が編纂したもので、神話による国の成り立ちを述べた「天孫降臨の神勅」や「即位建国の大詔」、忠君愛国の道徳を示した「教育勅語」、皇国軍人としての規範や心構えを説いた「陸海軍人に賜はりたる勅諭（軍人勅諭）」などが集録されています。</p> <p>* 神聖不可侵「尊くて侵してはならない」      * 元首「(国家の) 代表者」          * 統帥「最高指揮官として率いること」      * 皇国軍人「天皇国家の軍人」          * 忠君愛国「君主にまごころを尽くして仕え、国を愛すること」</p>		



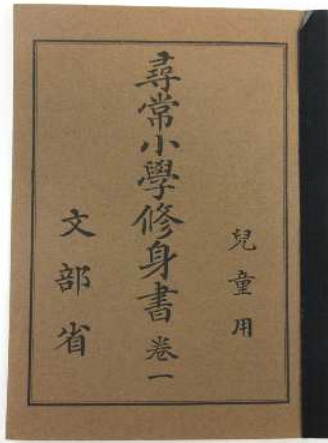
資料名	尋常小学唱歌／第一学年用	寸法(mm)	148×210
解説	<p>明治14年(1881年)、文部省(今の文科学省)は、日本初の唱歌教材「小学唱歌集／初編」を編纂し、その後も第2編、第3編と発行して、日本における洋風楽曲の普及と、情操教育の基礎を固めました。</p> <p>明治20年前後から、民間の唱歌集なども全国の小学校で使われました。ただ、この頃から歌詞に「忠君愛国」の精神を反映した楽曲が導入され、やがて日本の大陸進出が本格化する中で、文部省検定の軍歌集も、各学校で採用されました。</p> <p>この「唱歌／第一学年用」は、明治末期に使用された国定教科書で、巻頭に「日の丸の旗」の歌が掲載され、国家主義教育への配慮が伺えます。</p> <p>* 唱歌          もとは古代から宮中に伝えられた雅楽の用語で、一般的には音楽に合わせて歌う楽曲。</p>		

D. 戦争の経過(関連資料)



資料名	尋常小学読本／卷一 尋常小学書き方手本／第一学年用／甲種	寸法 (mm)	210×148、210×73
解説	<p>                     学制期、文部省（今の文部科学省）の「小学教則」に掲載された教科書は、多くが民間の著作で、各学校の自由採択制でした。                 </p> <p>                     明治19年（1886年）の小学校令で、教科書を国家的基準で編成する検定制度が採用されると、その後も忠君愛国の道徳を示した「教育勅語」の發布、やがて日本の大陸進出が本格化する中で、国家主義的な精神を反映した教材が重視されて、教育に対する国家の統制が強まりました。                 </p> <p>                     この「読本／卷一」は、明治末期に使用された国定教科書で、「日の丸旗」、「菊の御紋」、「兵隊」、「軍旗」など、文字と共に関連する絵も随所に描かれ、国家主義教育への配慮が伺えます。                 </p> <p>                     また、「書き方手本／第一学年用」は、当時カタカナ表記の送りがなが一般的で、手本は「ニハト」、「大キイ」など、カタカナ学習から始まっています。                 </p> <p>                     ＊学制期                      明治5年（1872年）「学制」發布～明治12年（1879年）「教育令」布告までの期間。                 </p>		

D. 戦争の経過(関連資料)



資料名	尋常小學校修身書／卷一	寸法(mm)	210×148
解説	<p>明治初期、学校で教える道徳「修身」の教科書は、欧米の翻訳書などが中心でした。しかし、明治23年(1890年)に忠君愛国の道徳を示した「教育勅語」が發布され、やがて日本の大陸進出が本格化する中で、「修身」は、国家主義的道徳として教えられていきました。</p> <p>この「修身書／卷一」は、明治末期に使用された国定教科書で、題材に「オヤヲタイセツニセヨ」、「キョウダイナカヨクセヨ」、「テンノウヘイカ」、「チュウギ」など、家族主義的体制の社会を支える精神が強調されています。</p> <p>*国家主義 国家を人間社会の中で最も大事で根本的なものと考え、その権威と意思とに絶対の優位性を認める立場。</p>		



D. 戦争の経過(関連資料)

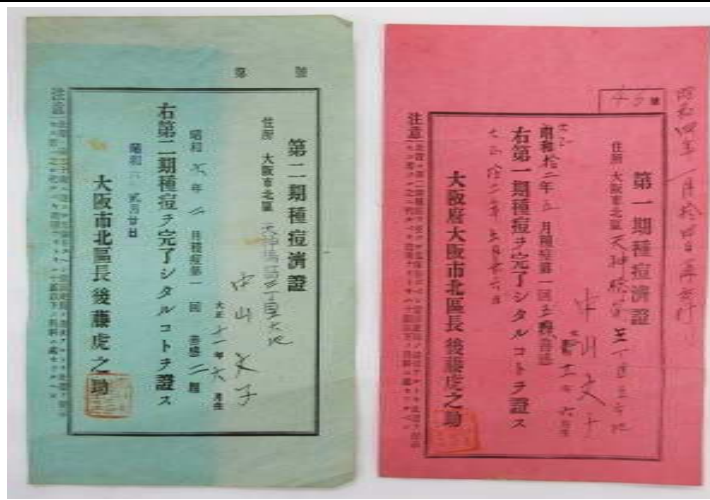


資料名	ヨミカタ 2	寸法(mm)	210×150
解説	<p>昭和16年(1941)年3月、国民学校令が公布され、これまでの尋常小学校は国民学校と改められ、国家主義的な色彩を強くした教育方針が示されました。その背景には、すでに長期化していた日中戦争と、数か月後に控えた日米開戦がありました。</p> <p>この「ヨミカタ 2」は、国民学校初等科一年の後期用教科書で、皇国民の錬成を目的とし、児童の心理的発達段階(一・二年生は「情意的な錬成」)に応じた内容になっています。例えば、教材「十六 兵タイゴッコ」では、「勇サンハ、オモチャノ テッパウヲ 持ッテ、ボクハ ホ兵(歩兵)ダヨ」、「花子サント ユリ子サンハ、私タチハ カンゴフニ ナリマセウ」、「カタカタ パンポン ボクラハ ツヨイ・・・ススメヨ ススメ」など、日常生活の会話を通して「皇国の道」を示しています。</p> <p>*皇国 天皇が統治する国</p> <p>*情意(的)な錬成 感情と意志、心持ち(その性質・状態)を磨き育成すること</p>		

D. 戦争の経過(関連資料)



資料名	空の骨壺	寸法(mm)	R=140
解説	<p>日本軍は敵兵やアジアの民衆に大きな犠牲を与えましたが、自らも多大な犠牲を出しました。戦死者の出迎えは市や村を挙げ行われたが、遺骨代わりに紙片入り骨壺も多くありました。</p>		



資料名	種痘済証	寸法(mm)	183×130
解説	<p>天然痘は、人から人に咳などで感染し、伝染力が非常に強く、致死率の高い疾病です。</p> <p>明治7年（1874年）、政府は広く国民に種痘（天然痘の予防接種）を定着させるため、「種痘済証」の交付及び実施回数等の報告などを求め、その後強制接種も義務づけました。そして明治42年（1909年）に「種痘法」の発令で、市町村による種痘の実施、種痘済みか否かの戸籍記載などを定めました。</p> <p>日本では天然痘の撲滅が確認された昭和51年（1976年）以降、基本的に接種は行われていません。</p>		

D. 戦争の経過(関連資料)



資料名	聖戦記念スタンプ帖 せいせんきねんスタンプちゆう	寸法(mm)	159×87
解説	<p>昭和12年（1937年）7月に勃発した宣戦布告なき日中戦争は、日本軍が破竹の勢いで、国民政府（中国）の首都南京を占領しました。当時の新聞やラジオは、連日大勝利のニュースを伝え、国民の熱狂的な高揚感は最高潮に達し、「聖戦」という言葉が多用され、各地では祝賀会や献納運動なども行われました。</p> <p>この記念スタンプ帳は、このような社会風潮の下で、子どもたちがスタンプ集めに夢中になり、国家や軍隊に対する「あこがれ」の感情を抱かせる役割を果たしました。そして彼らこそが将来の兵士たちなのです。</p> <p>*聖戦：神聖（尊くて侵しがたい）な目的のための戦争          *献納：神仏や国家、貴人などに金品を献上すること</p>		

D. 戦争の経過(関連資料)

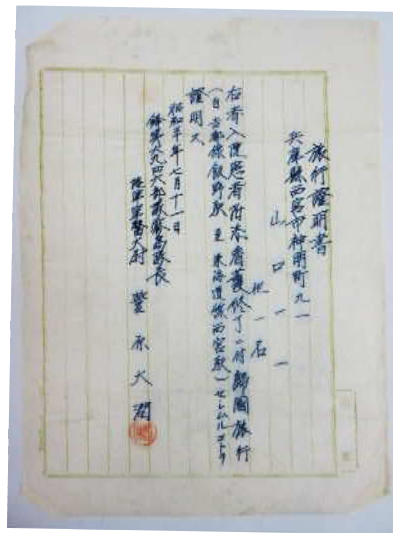


資料名	新行軍将棋	寸法(mm)	(箱) 75×100×25
解説	<p>このような旧日本軍を模した軍人将棋が広く普及したのは、日本の大陸侵攻が本格化する日清戦争（1894～95年）の頃で、以後、時代と共に新しい駒種を加えるなどして、木製の駒は1980年代後半頃まで製造されました。近年、スマートフォンやパソコンのゲームなども登場しています。</p> <p>この将棋の遊び方は、駒を裏向きに並べ、突入口から相手の駒と突き合わせ、審判が駒種を見て強い駒が生き残ります。敵の司令部を占領するか、相手を全滅させた方が勝ちとなります。</p> <p>*新行軍将棋の駒種  兵隊「大将・中将・少将・大佐・中佐・少佐・大尉・中尉・少尉・騎兵・工兵」  武器「タンク（戦車）・ヒコーキ（飛行機）・原爆」  特殊「スパイ・軍旗」</p>		

D. 戦争の経過(関連資料)



資料名	恩賜の煙草	寸法(mm)	91×97
解説	<p>明治時代には慣習的に菊の紋章入り「恩賜の煙草」が存在していたようですが、起源は不確かです。昭和8年（1933年）に制度化され、戦時中には軍歌「空の勇士」の歌詞にも見られるように、忠君愛国や士気高揚のため、旧日本軍への支給品でもありました。</p> <p>戦後も、叙勲者や園遊会の出席者、皇室の来賓などへのおみやげや謝礼品として用いられていましたが、世界的な健康志向の高まりを受け、平成18年（2006年）に廃止されました。</p> <p>* 恩賜：天皇や君主から物を賜ること          * 軍歌「空の勇士」の歌詞          「恩賜の煙草を いただきて 明日は死ぬぞと決めた夜は・・・」</p>		



資料名	旅行証明書	寸法(mm)	245×178
解説	<p>終戦まであと1か月余り、軍の施設と思われる病院で、入院患者の付添看護を終了し、国鉄（今のJR）吉都線宮崎県飯野駅（今のえびの飯野駅）から、東海道線兵庫県西宮駅まで、帰郷旅行を許可した証明書です。</p> <p>* 吉都線：今のJR鹿児島県吉松駅～宮崎県都城駅間</p>		